

(様式1)

大 学 名	神戸大学	学 問 分 野	生命科学
専 攻 等 名	バイオシグナル研究センター、大学院自然科学研究科(生命科学専攻、分子集合科学専攻)、大学院医学系研究科(医科学専攻)		
拠点のプログラム名称	蛋白質のシグナル伝達機能		
拠点リーダー氏名	吉 川 潮	所属部局・職	バイオシグナル研究センター ・教授
プログラムの概要	本プログラムには神戸大学の関係部局からシグナル伝達の研究に従事する教官が参集し、リン酸化反応を中心とした蛋白質の構造修飾によるシグナル伝達機能の研究の進展と、バイオシグナル伝達機構の全体像を俯瞰する知識の統合を目指す。同時に研究科を越えた学生の先端教育により、本領域の研究推進を担う人材養成に貢献する世界的な研究教育拠点を形成することを目的とする。		
拠点形成の目的・必要性	本拠点形成計画では、バイオシグナル研究センター、自然科学研究科、医学系研究科からシグナル伝達の研究に従事する教官が事業推進担当者として参集し、蛋白質の構造修飾によるシグナル伝達機能の研究の進展とバイオシグナル伝達機構の全体像を俯瞰する知識の統合を目指すとともに、研究科を越えた相互啓発による学生の先端教育を行い、世界的な研究教育拠点を形成することを目的とする。本学にはシグナル伝達研究に関する知識、技術、人材が集積されていることから、シグナル伝達の分子機構に関する多大な成果をもたらし、同時に本領域の研究推進を担う人材養成にも貢献することが期待され、また、本領域の研究は疾患への選択性の高い治療薬剤の開発や、生産科学における技術革新へと波及効果をもたらすことから、本計画による拠点形成の必要性は極めて高い。		
研究拠点形成実施計画	学術研究推進機構の中にCOE委員会(仮称)を設置し、事業推進担当者は同委員会の助言・評価のもとに初年度の拠点活動を立案実施する。ことに、世界的な研究教育拠点の形成について、若手をエンカレッジする仕組みとして、現在の博士後期課程学生を積極的にRAとして採用し本研究拠点への参加を促し、将来の研究を担う人材育成の第一段階とする。また、海外からの学生の受け入れ体制の確立を含めた今後の体制を整備する。初年度にあたり事業推進に必要な設備備品の整備に努め、本拠点のホームページを作成しその活動を公開するとともに、情報交換と技術協力に役立てる。研究活動については、研究対象(細胞、生物およびシグナル蛋白質)により所属専攻等を横断する研究組織を構成し、シグナル伝達機構に関する研究を開始する。		
教育実施計画	教育実施については、研究拠点形成実施計画の項目に記載したように、海外からの学生の受け入れ体制の確立を立案するとともに、博士後期課程学生を積極的にRAとして採用し、将来の研究を担う人材育成の第一段階とする。また、大学院学生等を学会に派遣するとともに、ディスカッション会合の開催、研究方法・材料に関する情報交換と技術協力、大学院学生の英語コミュニケーション能力向上を目指した活動を実施するとともに、学生の海外派遣等について検討を行う。同時に、研究活動を通じた大学院生の教育により本領域の研究推進を担う人材養成に努める。		

医学系研究科 (医科学専攻)

自然科学研究科 (農学系)

バイオシグナル研究センター

自然科学研究科 (理学系)

自然科学研究科 (連携講座)

(理化学研究所
発生・再生科学総合研究センター)

バイオシグナル
伝達機構の全体像
の研究

知識・技術力の
総合化による
先端教育